



# オアシス

文責：副学長  
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2019年10月11日発行 第18号

ラグビーワールドカップ日本大会が沸騰しています。1次予選を3連勝中（10/5 現在）の日本は想像以上の大活躍で、ラグビーをあまり知らない人でも大盛りあがりの盛況ぶりとなっています。私もラグビーのルールはよくわかっていなかったのですが、TV観戦をしているうちに理解できるようになり、面白さが伝わり手に汗を握りながら応援をしています。

観戦をしているうちに気が付きましたが、ラグビーはとても紳士的なスポーツであることがよくわかりました。一見、乱暴な取っ組み合いだけか（失礼！）と思いきや、厳正にルールを守りながら体当たりするときには思いっきり当たり、見ごたえと爽やかさが混同するとても魅力的なスポーツでした。特に気に入ったところは、「ノー・サイド」に表現されるとおり、ゲーム終了後は敵味方なしの行動でお互いをたたえ合う姿です。今後、どこまで勝ち進むのかとても楽しみです…。

## ◎ 本アカデミー弦楽アンサンブルが大好評！

先日、「五嶋みどりコンサート」に便乗させていただき、プレ・イベントのステージにおいて本 Jr.オーケストラ弦楽器の皆さんによる「弦楽アンサンブル」を披露することができました。後から考えると世界的ヴァイオリニストの演奏会に私たち Jr.オーケストラが出かけて行って、しかもステージで演奏するなんてそれはとても勇気がいることです。その大胆さに我ながらしばらくは戸惑いを隠せない状態でした…。五嶋みどりさんの「国連ピース・メッセンジャー」としての立場や、後進の指導など何事も音楽思想を通して訴えかける懐の大きさを感じさせていただきました。前日の弦楽アンサンブルのリハーサルにも聴きに来てくださり、子どもたちの素朴な質問をも真摯に受け止め、一つ一つを丁寧に答えてくださいました。これらの体験は、子どもたちにとって一生忘れられない思い出になったことと思います。

当日の弦楽アンサンブルの演奏曲目は、ビバルディ作曲、弦楽合奏協奏曲「四季」より、「春」から第1楽章、「夏」から第1楽章、第3楽章を披露し、ソリストには本アカデミー受講生がそれぞれの楽章を務めました。本番の演奏は熱演となり、会場からも大きな拍手があがるなど演奏後の評判も上々でした。



### ◆みどりさんのコンサートを聴いて

チケット販売からおよそ1週間で完売となるなど、ヴァイオリニスト“五嶋みどり”さんの知名度はとても高く、生で聴けるコンサートがとても楽しみでした。当日も本番前にどのような姿で現れ、どのように最初の音が発せられるのだろうか、あれこれ考えながらワクワク感満載で待ちました。客席がシーンと静まり返ったその時、ステージ下手側の扉が開くと同時にピアニストと共に登場！その姿は…。エッ！先ほどステージ裏で出会った時と同じ服装…。その時はステージ衣装に着替える前かな

…?と置いていたら、同じ衣裳で登場…。音合わせ後立ち位置が決まると、いきなり蝶が舞うが如くリズムカルに躍動するかと思いきや、出だし音がいつ始まったかわからなくなるほどに、ごく自然に鳴り始め、気が付けば名器グアルネリ（ヴァイオリン）がホール全体に響き渡っているという表現力の粋を極める技術力に驚愕しきりでした。また、演奏技術ばかりに傾倒されるのではなく一音一音をとても大切にされた弓の動きなどに目を奪われ続けました。

コンサート終了後、驚きはまだ続きます…。楽屋でゆっくりされているだろうと想像していたところ、練習が始まったというのです。興味本位で楽屋の傍まで伺うと、確かにヴァイオリンの音色が漏れていました。その音色はテクニックの練習ではなく、音の整理をされているような感覚で受け止めました。その状況を目の当たりにし、コンサートが終わっても芸術には終わりがいいことを語ってくださっているように深く心に響きました。私たちは、演奏会が終わるごとに一喜一憂するところですが、芸術に対する受け止め方の違いに、ますますみどりさんへのファン度合いが増したようです。

五嶋みどりコンサートに触れ、思いを特に強くしたことがあります。最近の傾向として、クラシック音楽が芸能化していることが気になっていました。一般の皆様クラシック音楽を身近なものへと誘うことは否定しませんが、本質からあまりにも外れていくことは考えていかなければならないと思っています。それは、クラシック音楽の偉大な作曲家たちから生み出された曲は、それぞれの生活環境や景色、当時の時代背景の中から生まれています。しかし、当時の記録は残っていません…。言い伝えぐらいのものでしかありません。だからこそ楽曲を深く掘り下げ、研究してこそ価値ある演奏ができるものと思うのです。それぞれのアーティストが研究しつくした結果のコンサートが、どのような表現になるのかがとても興味深く楽しみとなってきます。五嶋みどりコンサートを通して改めて楽曲研究の大切さを感じたところです。

アカデミーの音楽研究院では、主位研究などを通して作曲家の生活環境や時代背景などが学べる機会があります。受講生は勿論、指導講師の皆さんも学び続けることの大切さを忘れないことが「芸術の本質」へと近づくことにつながるものと思われまます。

## ◎ 「出雲オペラ」がいよいよ始動！

2021年3月へ向けて、いよいよ出雲オペラ公演が始動しました。本格的なオペラ公演「椿姫」から10年、これまではミニオペラを継続しながら絶やさない努力を続けてまいりましたが、やはり本格的なオペラを鑑賞したいという期待が過去の公演アンケートからも読みとれ、主催者側としても士気向上のためにも実施しようとの声があがりはじめ、出雲オペラ公演が実現することになりました。現在公演に向けて、北九州シティオペラの芸術監督“蓮井求道”氏をお迎えして研究講座や核になることの打合せが続いています。実際に出演者募集など目に見えてくるのが年末ごろになると思います。



公演が決定しましたので、出雲芸術アカデミーを始め関係者の皆様と同じ方向を向いて一丸となって取り組まなければ成功はあり得ません。総合芸術に取り組むことは、本アカデミーとしても組織が一体となることのできる良い機会ではないかと思ひます。どのようなステージが出来上がるのか、今からとても楽しみです。

【このたよりは、本アカデミーホームページでも掲載します <https://www.izumo-zaidan.jp/academy/>】